



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3316 号 2016.10.24 発行

### 飲み水支援に安堵 続く濁り水 毛布求める声

日本海新聞 2016年10月23日

震度6弱の地震に見舞われた鳥取県中部の被災地では22日、電気や水などのライフラインは早急に回復したものの、一部で濁り水が出たため、県内の水道事業者や自衛隊、鳥根県などから計12台の給水車が出動し、きれいな水を提供。災害協定企業から6万4800本のペットボトルが配布された。飲料水を手にした住民らは、ほっと一息ついた。



住民(左)に飲料水を手渡す自衛隊員=22日午後3時8分、湯梨浜町方地の舎人会館

湯梨浜町舎人地区では、21日の地震発生直後から、約200世帯の水道で濁り水が発生した。避難所となっている舎人会館(同町方地)には、22日朝から町の給水車が配置され、午後から陸上自衛隊の給水車も加わった。

会館に立ち寄った住民は、町職員から2リットルのペットボトルを手渡され、自衛隊員が準備した緊急用飲料水を持ち帰った。近くに住む会社員、藤田幸さん(59)は「飲料水の配給や自衛隊の方の応援は大変ありがたい」と喜んだ。

避難所の一つ、成徳小体育館(倉吉市仲ノ町)で一夜を明かした村岡順子さん(59)=同市堺町3丁目=は「夕べは想像以上に寒かった。毛布1枚で冷え込んだ」と話し、毛布の必要性を訴えた。避難所に詰めている市職員は「紙コップやお茶が夜までもつか心配。トイレトペーパーも少ない」と話した。

北栄町が2カ所設置した障害者を収容する福祉避難所は22日朝、利用者4人が帰宅した1カ所を閉鎖。残った北条健康福祉センター(同町土下)では、同日午後3時現在で11人利用。水道水が少し濁っているため飲料水が不足し、町の備蓄品のペットボトルを利用して急場をしのいだ。(足立篤史、石原美樹、高取正人)

### 吉野ヶ里町のNPO 障害者就労「出会いの輪」を 「手づくり工房なないろ」24日開店

ふっくら豚まんいかが? 佐賀新聞 2016年10月23日

24日にオープンする手づくり工房なないろの豚まん。国産の素材にこだわり、利用者が販売にあたる=吉野ヶ里町

吉野ヶ里町に24日オープンする豚まんのお店手づくり工房なないろ

ふっくらとした手作りの豚まんを提供する「手づくり工房なないろ」がオープンする。障害者の就労による自立や社会参加に取り組む特定非営利法人吉野ヶ里の新事業で21日、プレオープン式典があった。地域社



会との交流の場となる工房にと、支援員の牛島寿美子さん（56）は「田舎の家庭の味を楽しんでもらい、出会いの輪が広がっていけば」と期待を語った。

豚肉、しいたけ、たまねぎ、たけのこ…。豚まんを二つに割ればずっしりと中身が詰まった食材が現れる。使用する食材や小麦粉は全て国産で生地もその日に手作り。小麦粉の生地にイカの切り身を入れて焼く「イカ焼き」も販売する。それぞれ140円。

同法人の事業所は現在20人の障害者が通所で利用。これまで委託を受けた軽作業で収入を得てきたが、委託先を国外へ変更した企業もあり、ここ7～8年で収入が約5分の3まで減少。新事業を決定し、約3年かかって実現した。地元農家の野菜などの販売も計画しているという。

工房では調理は職員が担当し、障害者が販売にあたる。店名の「なないろ」には障害の有無によらず、全ての人の個性が認められるよう「架け橋となる虹」の意味が込められ、看板に七色の輪が描かれた。

プレオープン式ではテーブルカットや商品がふるまわれ、試食した地元の多良正裕町長は「野菜もたっぷり具たくさんでおいしい。町も応援していきたい」と笑顔を見せていた。オープンは24日。場所は三田川小学校南側。利用者の就労に合わせ平日11時から17時半で営業する。

## 栗原類が語る「発達障がいの子が起こした3つの奇跡」 R25 2016年10月22日



“ネガティブすぎるイケメンモデル”として注目され、モデル・タレント・俳優として活躍する栗原類（21）が、昨年5月、とある情報番組で「発達障がい（ADD・注意欠陥障がい）」であることを告白。視聴者の反響を受け、自身の生い立ちから現在までの道のりを語る自伝的1冊『発達障がいの子が輝ける場所をみつけられた理由』（KADOKAWA）を刊行した。そこで『ママテナ』記者が、栗原さん本人を直撃。これまで2人3脚で歩んできた、母への思いを聞いた！

### ●母の子育ては変わっていました

——著書のなかでは、類さんの目線から見たお母様の子育て、また母・泉さんの目線で違う角度から見た子育ての葛藤や苦悩が綴られています。お母様の子育ては、今育児に奮闘するママたちのヒントになるアイデンティティが凝縮されていますが、類さんが改めて、お母様の子育てで“感謝していること”はありますか？

「母の子育てはちょっと変わっていて、僕自身が、母の子育てを通して成長できたと感じるのは、“自分がどう思うのか”ばかり考えないという部分。子どもは物事を考える時、大概『自分が、自分が』と自己中心的になってしまうところがあって、それは普通の子どもも発達障がいの子どもも同じこと。でも、発達障がいだと、他人に関心を持ちにくい分、さらに自己中心的な考えになりやすいんです。そこで、母はいつも僕に、『こういうことをされたら自分がどう思うか』ではなく、『自分がどうされたら嬉しいのか、どうされたら嫌なのかを考えなさい』と言い聞かせていました。『自分がされて嫌なことは、決して他人にはしてはならない』と言われ続けてきたんです。これに関しては、もう耳にタコができるくらい言われていましたね（笑）。発達障がいだからとあきらめるのではなく、長い目で見て、周囲の大人が注意を促し続けることで、少しずつ変わることもあると思います」（栗原さん 以下同）

### ●好きなものはトコトン追求するべきだと教えられました

——お母様の文章を読むと、随所に“とにかく類さんが好きなことを伸ばしてあげたい”という母心が感じられます。

「そうですね。“自分の好きなことは徹底的に伸ばす！”これは主治医の高橋猛先生と話していたことでもあります。例えば、我が家には小さい頃からネット環境があり、僕は中学生の頃からネットで他者と交流を持ったり、映像を制作することに夢中になりました。自分がゲームをプレイしているところを録画してYouTubeにUPするというのをやっていたんですけど、母親は、それを制止したり注意することはまったくなくて、“ただ録画してUPするのではなく、どうすればクオリティを上げられるのか、クリエイティブなものができるのかを考えなさい”ということをお細かく僕に言っていました。当時は母の言うことが理解できませんでしたが、大人になった今、本格的に映像制作したいと思うようになって、“昔、母が言っていたことを訓練していれば、もっとより正確なビジョンを得られたのかもしれない”と後悔することがあります。“自分が好きなことを追及するということの大切さ”を、今更だけど気づかせてもらいました」

——子どもが好きなことをトコトン伸ばす…やれ勉強だ、お稽古事だ！と躍起になりがちなママたちには、頭でわかってはいても、なかなかできないことなのかもしれません。

「僕の勝手な個人的な考えですが、母は特に僕の趣味に関して、小さい頃から明確にしようと努力してくれていたように思います。母が幼い頃からいろんな音楽や映画を見せてくれたことによって、僕は具体的に自分がどういうものが好きなのか…ということに比較的早い段階で気づいたんですね。小学生の頃にハマったのが『モンティ・パイソン』（イギリスのコメディグループ）や『サウスパーク』（アメリカのコメディアニメ）。そこで笑いの素晴らしさを知ったし、お笑いのツボというのが早い段階で身に着けられたような気がします。大人になって見返して“自分はなぜこれが好きなのか”を理解するようになって、最近は“自分でも、いつかこういう作品を作りたい”と思うようになりました。改めて、母には感謝しています」

母・泉さんが、あきらめずに繰り返し繰り返し伝えてきたことが、今の栗原さんにはしっかりと伝わり、受け継がれている。長期の記憶が苦手とのことで、インタビュー中、思い出しづらいことは、時折メモを見ながら律儀にしっかりと答えてくれた。彼の礼儀正しさと真摯な姿勢こそが、泉さんの子育ての素晴らしさを証明していると言えるだろう。

（撮影／田子芙蓉 取材・文／蓮池由美子）

## 公共施設の現状 まずマンガで

読売新聞 2016年10月23日

小平市の公共施設を舞台に、市民らが描いたマンガ作品集

### ◆小平市が作品集刊行

マンガを通して、公共施設の将来的なあり方について一緒に考えよう——。小平市が市内の公共施設を舞台とすることを条件に、市民などから公募したマンガ作品集を制作し、販売を始めている。

作品集「小平市公共施設マネジメントマンガ作品集」では、小平市民文化会館「ルネこだいら」（美園町）や、公民館と図書館の複合施設「なかまちテラス」（仲町）などが舞台となり、ラブストーリーからSFまで様々な物語が展開する。堅苦しいタイトルとは裏腹に、肩ひじ張らずに楽しめる内容となっている。

市公共施設白書によると、市内には市役所や図書館、小中学校など180施設がある。人口が急増した1960～70年代にかけて集中的に整備され、耐用年数を半分以上過ぎたものが多い。

全施設を更新すると、2060年までに計1370億円と、巨額の費用がかかる試算だ。このままいけば、人口減少による税収減に、高齢化による社会保障費増が重なり、財政悪化をもたらす可能性が高い。

市は白書に基づき、昨年12月、「公共施設マネジメント基本方針」を策定。60年の人



口予測に合わせて、公共施設の総延べ床面積を20%以上縮減することを目標とし、存廃の検討を始めた。

担当の市行政経営課は市民を巻き込んで議論していこうと、まずは興味を持ってもらうために、今回の企画を発案した。

作品募集に先立ち、5月下旬から6月中旬まで、毎週木曜日の夜2時間、中央公民館でマンガ教室を開催した。市職員が冒頭の10分間、公共施設の現状や課題を説明した後、プロの漫画家がマンガの描き方を基本から指導した。7月下旬の募集期限までに、同教室を受講した10～30歳代の7人と一般応募者2人の計9作品が寄せられ、1冊にまとめられた。市役所・出張所で350円(税込み)で販売しているほか、市内の図書館・公民館などで閲覧できる。問い合わせは市行政経営課(042・346・9756)。

### 「苦しむ女性たちを助きたい」 「若草プロジェクト」設立記念シンポ



東京新聞 2016年10月23日

「生きづらさを抱えた女性をどう支援できるか」と問いかける  
江川さん(右)と沖田さん=都内で

虐待や貧困などで、生きづらさを抱える少女や若い女性らを支援する「若草プロジェクト」の設立記念シンポジウムが22日、都内であった。約150人の参加者は、孤立しがちな少女らを連携して支援につなげていくことを確認し合った。

看護師資格を持つ漫画家の沖田×華(ぼっか)さんは病院に勤務していた時を振り返り、「望まない妊娠で手術を受ける10代の女の子が想像以上に多かった」と話した。家出した少女の保護などを行っているNPO法人「BOND(ボンド)プロジェクト」(渋谷区)の水野ちひろさん(31)と中村恵里奈さん(23)は、実父からの性虐待や援助交際など、駆け込んで来た女性の実情を話した。

水野さんは「性に関することは、一人で悩みを抱えがち。言葉で自分の感情や状況を伝えることが苦手な少女も多い」と話し、中村さんも「弁護士さんや、行政で働く大人たちの支援機関は、立派過ぎて敷居が高いと感じているのでは」。進行役でジャーナリストの江川紹子さんは「それぞれの機関が専門性や個性を生かして支援につなげることが大切だ」などと締めくくった。

プロジェクトは、前厚生労働次官の村木厚子さんや作家で僧侶の瀬戸内寂聴(じゃくちょう)さんらが呼び掛け、この春に発足した。村木さんはシンポジウムの冒頭、「多くの人に協力してもらい、会の設立にこぎつけた。苦しんでいる若い女性たちを助きたい」とあいさつした。(木原育子)

### 「後見制度」悪用 横領か 家裁、県社会福祉士会元副会長を告発

徳島新聞 2016年10月23日

徳島県社会福祉士会の元副会長だったつるぎ町の社会福祉士の男(49)が、成年後見制度を悪用し、被保佐人と被後見人の5人の財産計数百万円を着服していたことが、司法関係者や被害者らへの取材で分かった。徳島家裁は男を県警に業務上横領の疑いで刑事告発しており、県警は立件に向けて捜査を進めている。

関係者や被害者の女性によると、男は家裁の選任で2013年1月に女性の保佐人となり、預金通帳からの出金など財産管理全般を担当していた。横領は同年12月に始まり、14年10月までに6回にわたって計約223万円を着服した。

家裁や女性への報告時には数字を書き換えるなどした預金通帳のコピーを提出し、発覚

を免れていた。同様の手口で女性以外にも4人から計数百万円を横領したとみられている。男は徳島新聞の取材に対し「話すことは何もない。事実関係についても答えられない」と述べた上で「被害者やその関係者には謝罪していく。返済の意思はある」と横領への関与をほのめかせた。

一部の関係者には「経営している介護支援事業所の資金繰りが苦しくてやった」と動機を話しており、男が実質的に経営する事業所は介護報酬を不正受給したとして9月、県から介護保険事業者の指定取り消しを受けている。

家裁は「保佐人の権利を乱用し、被保佐人の財産を不当に減少させた疑いがある」として男を解任し、県警に刑事告発した。男を後見人や保佐人に選んだことについては「現段階では何もコメントできない」としている。

横領金は、男の後に後見人や保佐人として選任された弁護士が男から回収しているが、一部にとどまっているという。

男は05年6月から14年6月まで県社会福祉士会（09年5月までは日本社会福祉士会県支部）の副会長を務めていた。同会は近く男を除名する方針。

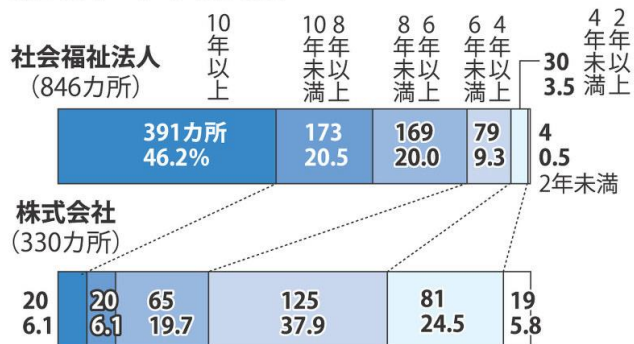
県社会福祉士会の上地幸博会長は「熱心に会の活動に取り組んでいたのが驚いた。被保佐人を支援する立場にあるにもかかわらず、権利を侵害してしまい申し訳ない気持ちでいっぱいだ」と話した。

### 保育所 株式会社運営施設、保育士の経験浅く 平均勤務年数は5年

毎日新聞 2016年10月23日

東京都内の認可保育所と小規模保育所に関し、株式会社の運営施設の保育士らの勤務年数は平均5年で、社会福祉法人の施設の半分程度であることが分かった。各保育所が東京都に提出した昨年度の財務状況を毎日新聞が情報公開請求し、調べた。株式会社には新規参入が多い事情もあるが、自治体関係者は「職員の入れ替わりが激しい施設もある」と指摘する。【桐野耕一、細川貴代】

各保育所の平均勤務年数



※今年8月末までに昨年度の財務状況を東京都に提出した保育所の情報公開資料から作成。小規模保育所も含む。四捨五入のため合計しても100%にならない

### 介護職の魅力 動画で 道商連が配信 就職セミナーでPR



北海道新聞 2016年10月23日  
道商連が作った介護職の魅力を伝えるインターネット動画

北海道商工会議所連合会（道商連）は、介護の現場で働く意義や大切さを分かりやすく伝えるインターネット動画「心に寄り添う～高校の介護実習から～」の配信を始めた。24日には学生向けの就職セミナーに専用ブースを設け、この動画を放映しながら介護職の魅力をPRし、

業界の深刻な人手不足解消に一役買う。

動画は主人公の女子高生が介護実習を通じ、お年寄りに寄り添って働く仕事の魅力、やりがいなどを実感する内容。国が認可する介護福祉士養成校の一つ、留寿都高（後志管内留寿都村）の生徒らとの意見交換を基に構成し、東京のアニメ制作会社に依頼し作成した。

道商連は24日午前10時半から、ホテルさっぽろ芸文館（札幌市中央区北1西12）で開かれる合同企業説明会「就活ナビ」の会場に介護職の魅力を伝えるブースを設け、動画を放映。専門家たちが仕事の内容や現場の状況を詳しく紹介する。

団塊世代がすべて75歳以上になる「2025年問題」を控え、介護業界は人材確保が急務。こうした状況を踏まえ、道商連は介護現場の実情を漫画で紹介した冊子の作製や、介護分野の企業と学生との懇談会の開催など、対策に力を入れている。動画は道商連のホームページ（<http://www.hokkaido.cci.or.jp>）から閲覧できる。

## 障害のある子を通常学級に 急がれる看護師配置

神戸新聞 2016年10月23日

たくさん友達もでき、元気に学校に通う kannasannya = 西宮市内



気管にあけた穴からの痰（たん）吸引や、おなかの穴から胃に栄養を送る「胃ろう」など、日常生活で医療的ケアが必要な子どもたちがいる。地域の学校で学びたいと願うものの、看護師の配置などについては自治体や学校によって対応もまちまちだ。胃ろうが必要な兵庫県西宮市の小学1年 kannasannya（6）が、市立小学校に入学するまでを追った。（鈴木久仁子）

kannasannyaは「CFC症候群」という先天性の難病で、発達はゆっくり。口から食事を取りにくいので、胃に直接、栄養を送る。

西宮市立の小学校ではこうした医療的ケアを保護者以外が行う場合、医師や看護師の配置が必要になる。そこで入学の2年前から、母親の知美さんは市教育委員会に相談し、小学校の通常学級進学を希望し続けた。

しかし、市内では前例がなく、市教委は「安全面と教育面を考慮した」と、特別支援学校もしくは小学校の特別支援学級を提案。知美さんは「ほかの子どもたちと理解を深めるには、同じ場所と一緒に過ごしてほしい」と願い、自ら知人の看護師に依頼し、協力してもらうことにした。最終的に、市教委がこの看護師を配置。kannasannyaの学校生活を、看護師と学校の協力員が支える。

国語が大好きという kannasannyaは、友達の朗読する文章を覚えるのが得意。校外学習やプール、運動会にも参加する。「毎朝元気に笑顔で登校する姿を見て、この選択をして良かったと感じる」と知美さん。「地域の学校にしても、支援学校にしても必要な配慮が受けられれば“特別な子ども”ではなくなるのでは」と話す。

文部科学省の2015年度調査によると、日常的に医療的ケアが必要な児童生徒は全国の公立小中学校に839人（兵庫県内37人）在籍し、うち301人（同10人）が通常学級に通う。一方、看護師の配置は350人（同11人）にとどまっている。

文科省はこれまで、看護師配置の補助対象を特別支援学校に限ってきたが、16年度から公立小中学校にも拡大。また、障害のある子とない子が一緒に学ぶ「インクルーシブ教育」のシステムづくりも目指している。

### ■インクルネット西宮世話人 栗山和久さんの話

障害者差別解消法が施行され「障害に応じた合理的配慮の提供」が義務付けられたにもかかわらず、障害のある子どもを通常学級に通わせることに悩む保護者は少なくない。こうした問題を考える「インクルネット西宮」を今春発足し、保護者の意見交換をしている。

車いすの子どもが希望する介助や通学支援を受けられないケースが今もある。医療的ケアが必要な子どものための看護師・協力員配置も、自治体任せでは不十分なままだ。

大阪府は看護師配置のため独自の制度を設け、すでに100人以上の児童・生徒が地元の学校に通う。「だれもが学びたい環境で学べる」ことが大切だ。

## 受刑者社会復帰へ「光」 浜田の刑務所見学会

読売新聞 2016年10月23日

官民共同運営の刑務所「島根あさひ社会復帰促進センター」(浜田市旭町丸原)が23日、市民を対象に施設見学会を開く。開設から8年となったセンターでは、受刑者の円滑な社会復帰を目指し、職業紹介も行われ、矯正教育のプログラムには馬とふれ合う時間もある。9月下旬にセンターを訪ね、受刑者の日常取材した。(岡信雄)  
受刑者が暮らす個室。テレビがあり、窓に鉄格子はない(浜田市の島根あさひ社会復帰促進センターで)



### ◇施設

丘陵地にあるセンターは、32万5000平方メートルの敷地に4階建ての収容棟9棟や体育館などが並ぶ。受刑者も通る廊下を歩いて、居室を訪れた。9割以上が個室で、録画番組を1日2時間視聴できるテレビがあり、強化ガラスの窓には鉄格子がない。「規則正しい生活の中で、人間性を培うことも目指している」。石原淳一調査官が説明した。

家族との面会などで移動する際に刑務官が付き添うことはない。全受刑者の衣服にはICタグが着けられ、中央監視室で位置を把握し、受刑者どうしが不用意に接触しないよう、廊下の扉の開閉も制御するという。

受刑者の食事でも食べてみた。この日の昼食は麦ご飯に豚肉のいためもの、ブロッコリーのサラダにワカメのみそ汁。743キロ・カロリーで、味もなかなか。石原調査官は「社会では不規則な食事だった受刑者が多く、栄養を細かく計算した食事で健康的になれる」と言う。

### ◇更生

国内の刑務所や拘置所など刑事施設77か所の収容者は2015年末で5万8497人。14年中に出所した2万4651人のうち、15年末までに再び刑事施設に入ったのは4569人(18.5%)。センターでは同時期、出所した706人中33人(4.6%)が再び刑事施設に入った。

石原調査官は「収容者の条件が異なり、割合が低いかどうかは一概には言えない」とするが、出所前の受刑者に対するアンケートでは、「職業教育が充実し、ありがたかった」など感謝の声が多いという。

受刑者は午前6時40分に起床し、薬物や飲酒といった個々の問題に応じたプログラムなどに取り組む。盲導犬の育成プログラムでは自分が社会に役立つことを自覚し、馬とふれあうことで力では人を支配できないことを学ぶ。この日は雨の中、馬場で6人の受刑者が馬を優しくなでていた。

職業訓練は、理容や介護福祉、パン作りなどの科目があり、パソコンで映像を編集する実習も。神楽面や石見焼作りなど、高齢者らに配慮した訓練もある。

14年には職業紹介も開始。採用の前提となる契約を結んだ企業は38社に上り、これまでに内定者を含め43人が就職した。センターの運営会社「SSJ」の渡辺信明・就労支援リーダーは「協力してくれる企業をさらに増やしたい」と話す。

### ◇地域の支え

運営目標に、「地域との共生」も掲げる同センターでは09年から、受刑者と地域住民が文通をする取り組みを進める。石州和紙をすく訓練を見学していると、「受刑者はこの和紙で手紙を書くんですよ」と、石原調査官が教えてくれた。

これまでに144組、現在は25組が手紙をやりとりする。受刑者たちは反省や将来の不安を明かし、住民たちは季節の出来事などをつづる。受刑者は「二度と過ちは繰り返さないと思った」、住民は「自分も生き方を見直す機会になった」と感想を寄せている。

石原調査官は語る。「支えてくれる地域住民への感謝の思いが、社会に戻った時の支えになるんです」

23日の無料施設見学会は午前9時～11時、午後1時～1時半に受け付ける。刑務作業

製品の販売や刑務官の制服の試着もある。問い合わせは、庶務課（0855・45・8171）へ。  
＜島根あさひ社会復帰促進センター＞

名古屋刑務所で起こった受刑者死傷事件を受け、各地に誕生した社会復帰促進センターの一つで、2008年10月に開所。民間の資金と経営ノウハウを活用する「PFI方式」で運営する。比較的刑が軽く犯罪傾向の進んでいない20～80歳代の男性受刑者約1270人を収容。刑務官ら国家公務員約200人に加え、民間の職員約350人が職業訓練などを担う。

**世界医師会長に横倉氏 日本人3人目** 朝日新聞 2016年10月23日

世界医師会の次期会長選が22日に台湾・台北市であり、横倉義武・日本医師会長（72）が選ばれた。任期は2017年10月から1年間。日本人の会長は、1975年に就いた故・武見太郎氏、00年の故・坪井栄孝氏に続いて3人目となる。

横倉氏は福岡市出身。12年に日本医師会長（任期2年）となり、今年6月に3選を果たした。世界医師会は1947年に設立。110カ国以上の医師会が加盟している。

**社説：経済統計見直し 確かな「時代を映す鏡」に** 西日本新聞 2016年10月23日

統計は「現在を映す鏡」といわれる。その中でも個人消費や住宅投資、設備投資、雇用、所得、物価などに関する統計は、その時点の国民生活や企業活動などを測る手掛かりとして欠かせない。

これら経済統計の見直し議論が活発化している。内閣府が先月、統計の改善に向けた有識者会議を発足させ、経済同友会も国内総生産（GDP）統計などの改善を提言している。背景には、統計の数値が今の経済実態を十分に反映せず、現場の実感とも乖離（かいり）している—という批判があるようだ。

特に消費や設備など多数の基礎統計を積み上げて算出するGDPは国の財政・社会保障政策のほか企業の経営も大きく左右する。今の時代にフィットする精度の高い統計の在り方を探してほしい。

GDPを巡っては、昨年7～9月期の実質国内総生産が1次速報では前期比年率0・8%のマイナス成長だったのに、改定値では同1・0%のプラス成長に変わり、日本経済の「景色」が一変した。改定値は、速報値公表後の法人企業統計を加味して算出したからだが、統計の精度や信頼性に首をひねる出来事だった。

日銀の研究員が、税務データで試算した14年度の名目GDPが519兆円で、内閣府が国際基準に基づき算出した公表値より約30兆円多かったことも話題になった。

GDPの精度向上で焦点となっているのは個人消費関連の統計だ。現在は約9千世帯の支出や収入を調査した「家計調査」などから推計している。対象は高齢者や専業主婦世帯に偏りがちで、単身・共働き世帯の消費やネットでの売買などが捕捉できていないと指摘される。また、基礎統計は各省庁が独自に算出するケースが多く、ばらつきがあって全体の調和が取れていないのも問題視される。

統計調査の充実には膨大な費用がかかる。抑制するには税務データなど行政記録の活用や民間企業の協力を得てビッグデータを使うのも一案だろう。時代の変化を取り込み、曇りやゆがみの少ない「鏡」づくりを目指してほしい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

